

平成 29 年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：一関市教育委員会

(防災に関すること)

I 事業の概要（地域の実情含む）

本市は、県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接している。西に須川岳（栗駒山）をのぞみ、市内には、北上川、磐井川、砂鉄川が流れ、自然に恵まれた地域であるが、市全体が広域となり、自然災害に対する防災に関しては、それぞれの地域に応じた課題が存在している。永井地区は、一関市の南側、宮城県との境に位置している。この地域には、北上川が流れており、昭和 22、23 年のカスリン・アイオン台風では堤防が決壊し甚大な被害を被った地区があるため、水害を想定した防災教育が行われてきている。

また、「水防法の一部を改正する法律」（平成 29 年 6 月 19 日施行）を受け、地域全体をあげた水害に対する防災教育の必要性がより一層高まっている。

このことから、「いわての防災スクール」として一関市立永井小学校を指定し、防災意識の基礎を築くための実践的な学習を通して、児童の自ら進んで考え行動できる力を高めるとともに、「地域の防災の担い手」としての力を育成することをねらいとして事業を実施した。

II 取組の概要**1 地域学習**

(1) 地域の災害調査（10 月 13 日）

大石恵司さん（永井地区老人クラブ会長）を講師に迎え、現地の見学や説明を通して永井地区の水害の歴史やカスリン及びアイオン台風の被災体験について学ぶ授業を実施した。

(2) 学区内防災マップ作り

ア 洪水や水害の学習（10 月 10 日）

学校防災アドバイザーの松林由里子先生（岩手大学理工学部助教）を講師に迎え、洪水や水害、ハザードマップの見方などについて学ぶ授業を実施した。

イ 校外学習（11 月 15 日）

防災マップ作成のために永井地域の 3 地区について、危険な場所、避難できる安全な場所、避難の際に役立つ施設などを調べる校外学習を実施した。

ウ 防災マップの作成（11 月 16 日）

学校防災アドバイザーの松林由里子先生（岩手大学理工学部助教）を講師に迎え、防

災マップ作成の手順について学んだ。グループ毎に作業を行い、それぞれの地区について防災マップを作成した。

**2 被災地交流学习**

(1) 被災地域（岩泉町）の方による防災教育講演会の実施（6 月 30 日）

岩泉町役場総務課文書室長佐々木久幸氏を招き、『『あぶない』を知る大切さ』と題して講演会を実施した。平成 28 年 8 月の台風 10 号による岩泉町の被害について、スライドを交えながら 3 年生以上の児童が学習した。

(2) 陸前高田市小友地区の訪問（11 月 24 日）

5・6 年児童とその保護者、永井地区住民の計 75 名で陸前高田市を訪問し、東日本大震災についての被災体験理解学習や避難体験学習を行った。避難体験学習では、小友小学校側に新設された避難用歩道橋を通り、指定避難所の公民館までの避難体験を行った。

**3 防災学習**

(1) 地域と連携した防災訓練の実施（9 月 5 日）

一関南消防署、永井地区防災自治会等と協力連携し、総合防災訓練を実施した。煙避難体験、バケツリレー、クロスロードなどの活動を実施し、災害時の対処について学んだ。また、アイ

オン台風の被災者である千葉貞子さんの防災講話「いきる」を全校で聴講し、児童の防災意識向上を図った。



- (2) 防災標語コンクール (1月12日)
3～6年生が対象。12月に作成した標語を審査し、全作品をホールに掲示した。最優秀賞1点、優秀賞1点、学年賞4点を選出し、1月23日の表現朝会で表彰した。
- (3) 副読本を活用した授業実践、避難訓練等
年間指導計画に基づいて、各学年で「そなえる」の視点で副読本を活用した授業を実践した。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 地域学習について
- 「自分の家のまわりや永井地区で起こるかもしれない自然災害について調べてみたい」の肯定的回答が87% (67人) から94% (72人) に増加した。児童アンケート (7月, 12月実施) より
 - 地域の災害についての歴史学習や防災マップ作りを通して、地域で起こりうる水害に対する関心や防災意識を高め、児童の自助の精神を養うことができた。



- (2) 被災地交流について
- 「あなたは自然災害がこわいと思いますか」の否定的回答 (あまり思わない) が4% (3人) から0% (0人) に減少した。児童アンケート (7月, 12月実施) より
 - 防災教育講演会では、岩泉町の被害状況 (死者20名、行方不明者1名) を知り、自然災

害の怖さと命の大切さを強く感じた感想・手紙を書いた児童が見られた。

- 陸前高田市での学習や津波避難体験を通じて、津波の怖さを実感するとともに、垂直避難の重要性について理解することができた。

児童の感想 (津波避難体験)

「遠くへ逃げるよりも自分の今いる場所から、一番高い場所へ避難すれば助かることが分かりました。もしものためにこの避難体験を忘れないようにしたいです。」 (6年児童)

(3) 防災学習について

- 被災体験を具体的に聞くことにより、多くの児童が自然災害の怖さとともに命の大切さに気付くことができた。

児童の感想 (防災講話)

「さだ子さんはうずまきにもまきこまれたけど、生きてよかった。わたしもいのちをだいじにします」 (2年児童)

- 総合防災訓練では、「共助」の意味を知り、みんなで協力することの大切さを感じた児童が多く見られた。

児童の感想 (総合防災訓練バケツリレー)

みんなで協力してやるとあまりつかれず、こんなにもはやく大きいバケツの水があふれたので、みんなでやるとこんなにもはやくなるとびっくりしました。 (4年児童)

- 校内防災標語の取組では、地域での助け合いに目を向けた作品10数点 (全77点中) あり、「共助」の精神を養うことができた。
- 一関南消防署、永井地区防災自治会と連携して防災訓練を実施したことで、地域ぐるみで防災意識を高めることができた。

2 課題

- (1) 次年度以降の学習内容、指導計画について
- 3, 4年生が行った防災マップ作りの学習については、次年度以降も総合的な学習の時間の年間指導計画に位置付け、調査地区を拡大するなどして継続して取り組むこと。
 - 今までに取り組んできた学習活動を見直し、精選を図りながら、より効果的に「自助」「共助」の精神を養うこと。
- (2) 地域との連携について
- 防災教育の充実に向け、今後も家庭・地域と連携しながら、災害別の避難所・避難場所についての周知を図るなど、防災に関する啓発活動を実施していくこと。